

サービス提供プロセスの管理に関する演習

【演習1】個別支援計画の作成

**【演習2】個別支援計画の実施状況の把握
(モニタリング)および記録方法**

演習の内容と目的

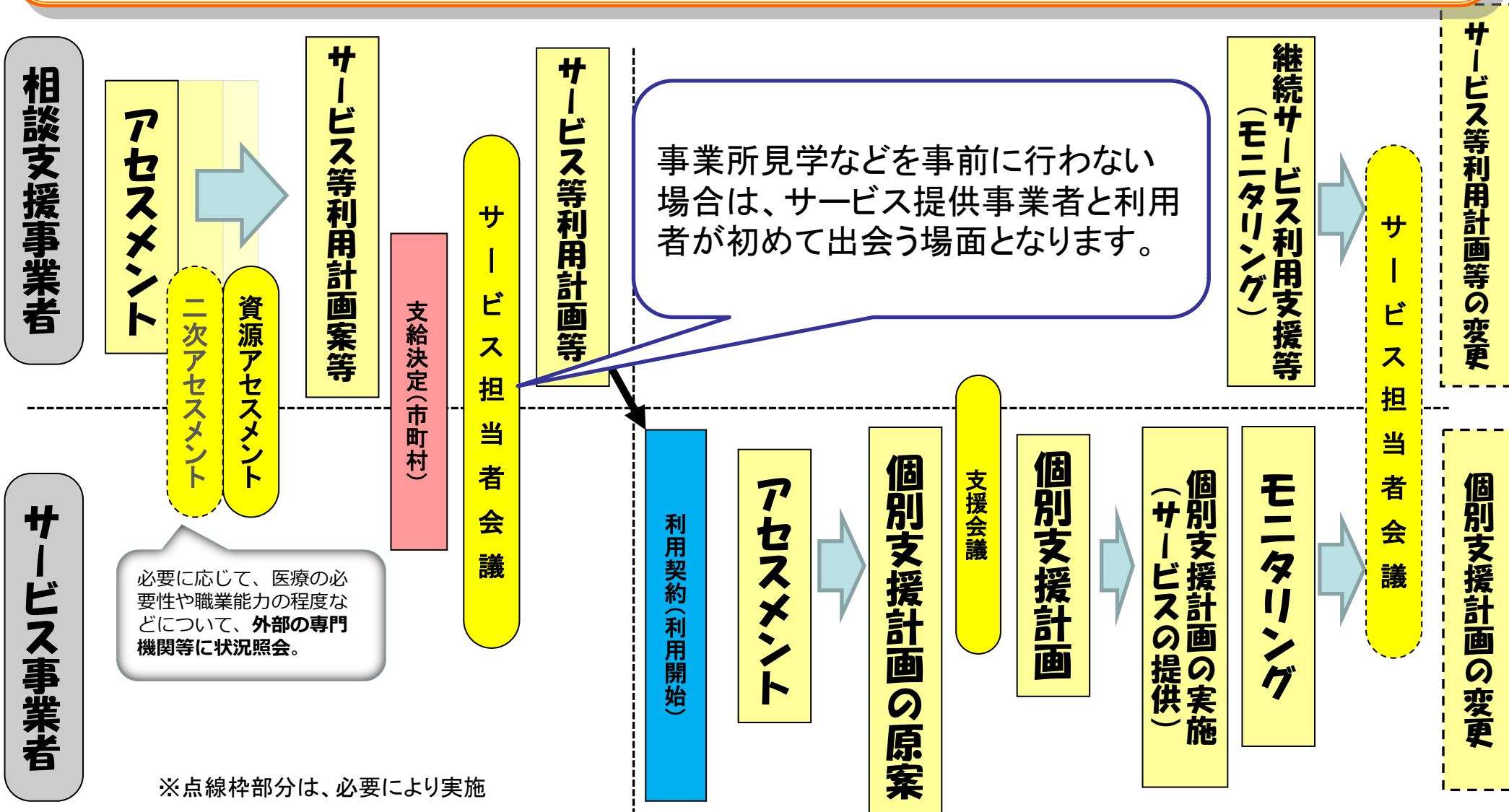
| | | |
|--------------------------------------|--|------|
| Ⅱ, サービス提供プロセスの管理に関する演習(7.5時間) | | |
| 1. 個別支援計画の作成(演習) | モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。 | 270分 |
| 2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(演習) | モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。 | 180分 |

今回の演習では、

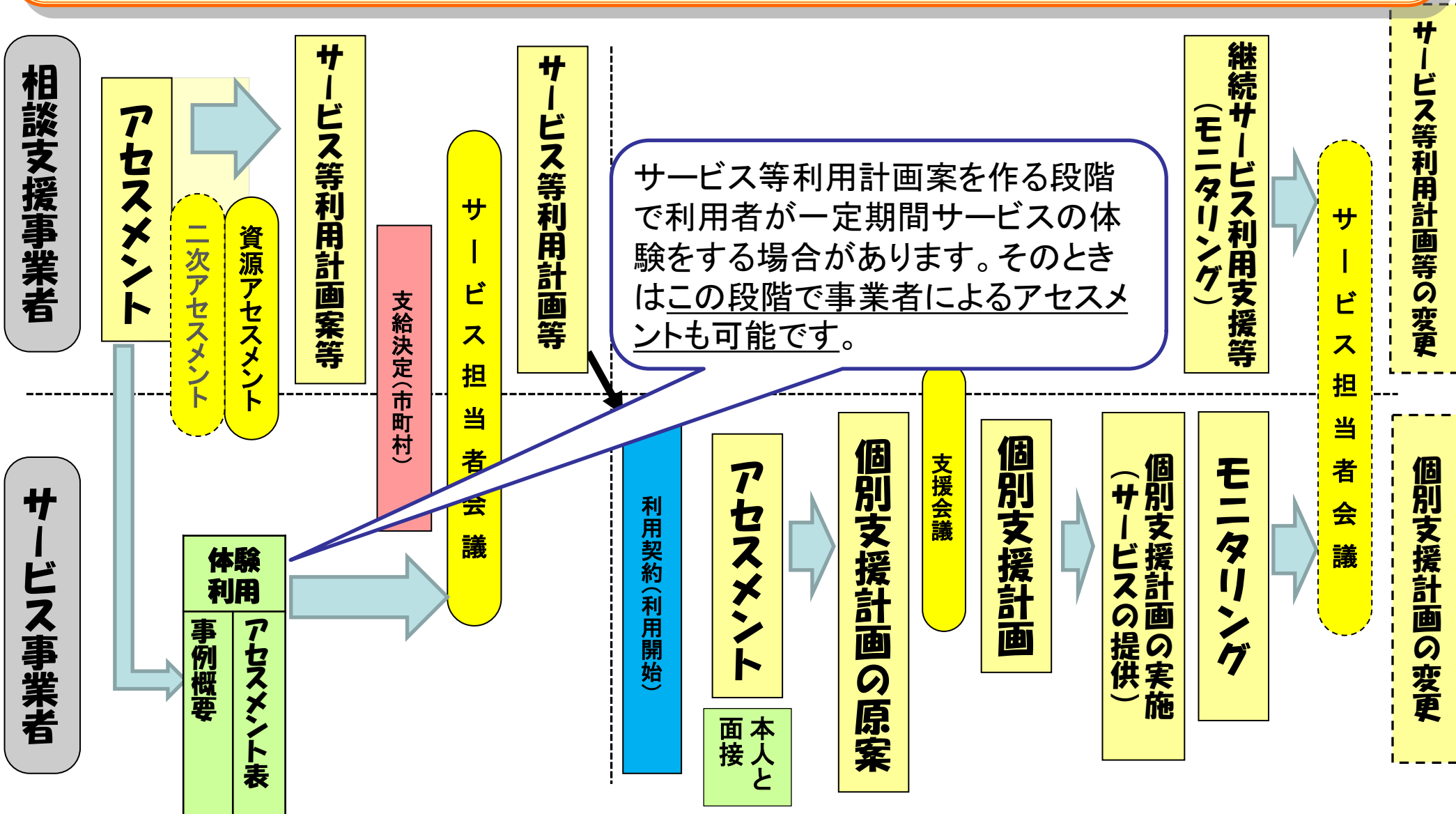
サービス事業所の実際の業務を

踏まえて考えてみると・・・

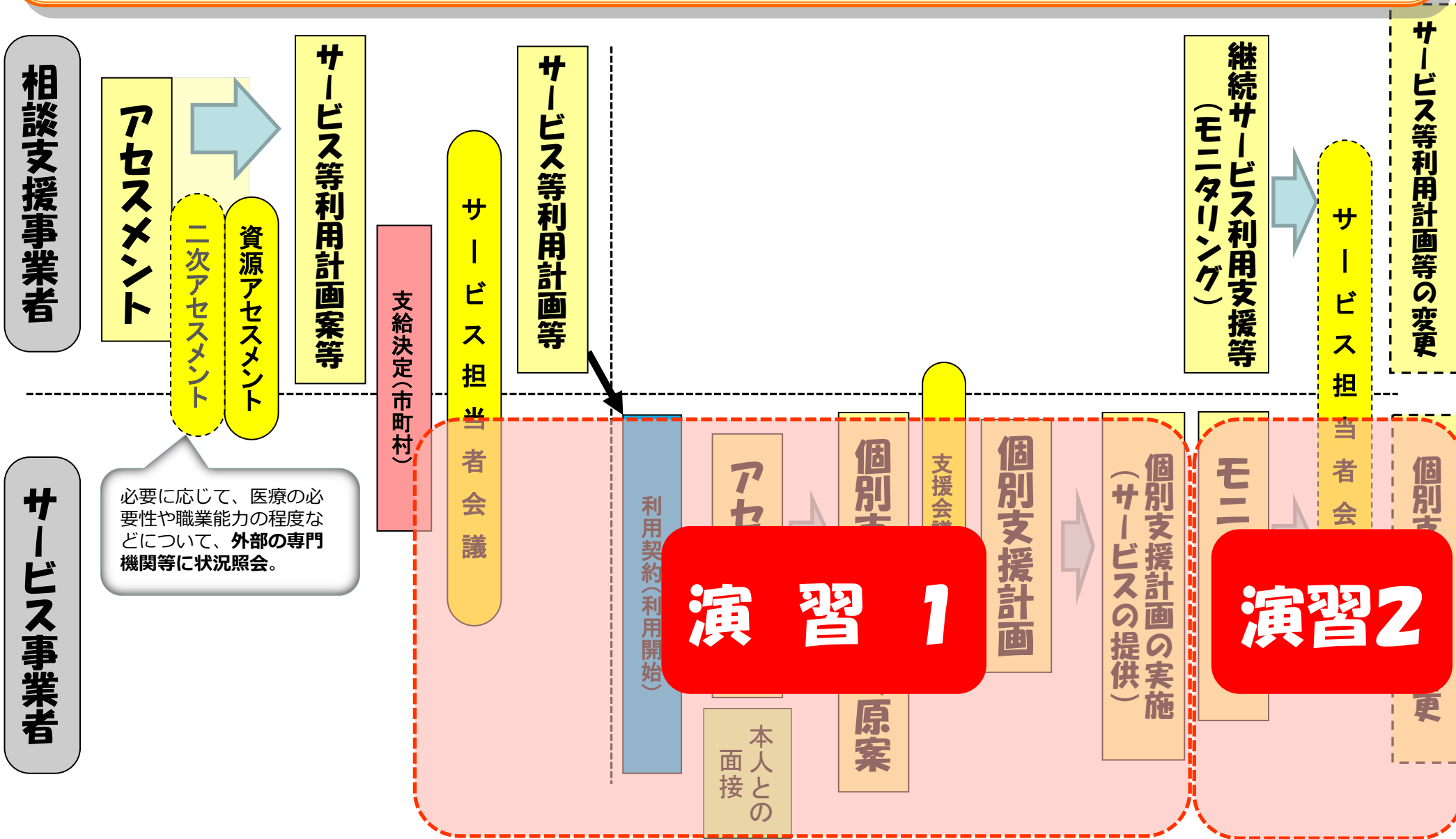
指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



各事業所の想定

- 演習1及び2では、共同生活援助と就労継続支援B型のいずれかの事業者のサービス管理責任者の役割を体験します。
- 受講番号が奇数番号と偶数番号でそれぞれの事業者に分かれて演習を進めます。
- 奇数番号(1・3・5・……)の受講者は
→「共同生活援助」事業者
- 偶数番号(2・4・6・……)の受講者は
→「就労継続支援B型」事業者

提出書類の確認

- D1 サービス担当者会議準備シート
- D2 ニーズの整理票
- D3 個別支援計画
- D4 個別支援計画(変更)

【演習1】 個別支援計画の作成

個別支援計画の作成

個別支援会議の実施

- ・個別面接等により事業所独自のアセスメントを行う。
- ・サービス等利用計画等を参考にする。

個別支援計画の原案を作成する

- ・利用者申込者心身の状況、他の障害福祉サービス等の利用状況を把握する。
- ・サービス担当者会議に参加し、専門的な見地から意見を述べる。

サービス担当者会議

演習事例の概要

【この事例の登場人物、施設名等の名称はすべて仮称です】

- 水道橋久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。発語や歩行し始めるのが少し遅かった。小学校の1、2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立って教室内を歩き回り、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあり、小学校3年生からは情緒支援の特別学級に移った。小学校6年生の時に軽度の知的障害と判定を受けた。
- 中学は特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し顧問に根気よく教えてもらい部活動では楽しく過ごしていた。昆虫や木工にも興味をもっていた。久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と1年に1～2回は会っている。
- 久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司が、わかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、上司が変わってから「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などを訴え、退職して自宅でのひきこもり状態の生活になった。
- 久さんが退職して半年後、父親が通勤途中で交通事故にあい大けがをして、仕事ができなくなり生活保護となった。父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があった。久さんも「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。
- 久さんは、相談支援事業所にサービス等利用計画案の作成を依頼し、相談支援事業所がアセスメントを実施、計画案を作成し久さんに提示し、了承を得たので計画案をA市福祉課に提出しました。それを受けてA市福祉課は共同生活援助と就労継続支援B型の支給決定を行いました。相談支援事業所の相談支援専門員は、「サービス担当者会議」を行います。
- みなさんは、サービス管理責任者として、サービス担当者会議に出席します。出席するにあたり、水道橋久さんの「事例概要」及び「アセスメント表」をもとに、奇数番号の方は「共同生活援助」を、偶数番号の方は「就労継続支援B型」を利用することを前提として「事前準備」を行ってください。

就労継続支援B型事業所「スマイル」の概要

| | | |
|------------|---|--------------|
| 事業所所在地の環境 | <p>人口は約10万人、人口の約30%は65歳以上の高齢者であり、人口の5%にあたる約5千人が障害者手帳を保持している。</p> <p>県庁までは自動車で1時間、都市圏までは電車で1時間程度かかる。</p> <p>産業は、新都市開発による工場誘致により第二次産業が増加傾向にある。</p> <p>公共交通機関は地元の鉄道、バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。</p> | |
| 地域の社会資源の状況 | <p>障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人やNPO法人により、就労継続支援A型・B型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。</p> <p>相談窓口として、障がい者相談支援センター1ヶ所、特定相談事業所8ヶ所があり、障害者就業・生活支援センターは隣市にある。</p> | |
| 地域の地場産業 | <p>自動車産業が盛んな地域であり、部品の製造をはじめとした下請け企業が多い。以前は、家内工業の工場がたくさんあり、職親制度等も利用して障害のある人の雇用がされていたが、最近ほとんどが閉鎖・倒産している会社が増えている。</p> | |
| 事業所の概況 | <p>多機能型事業所 就労移行支援事業 定員12名 就労継続支援B型事業 定員20名 現在の利用者は、身体・知的・精神など多様な障害種別の人が利用している。 久さんが利用を予定しているグループホームからはバスで10分（徒歩ならば45分かかる）の距離である。</p> | |
| 職員構成 | <p>管理者1名（60代女性） サービス管理責任者1名（本田一郎：40代男性） 職業指導員3名（40代女性、60代男性、20代女性） 生活支援員2名（30代女性、30代男性） 就労支援員1名（30代女性）</p> | |
| 日課 | <p>*平日 9:30～16:00 *土日祝日は休所</p> | |
| 主な作業内容 | 作 業 内 容 | 工賃の状況 |
| | カフェ（接客、皿洗い、調理補助等） | 時間 200円～400円 |
| | 組み立て作業 | 時間 200円～400円 |
| | 施設外就労活動（近所の運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業） | 時間 400円～580円 |

グループホームピアハウスの概要

- 共同生活援助事業所(介護サービス包括型)
 - * 夜間は連絡体制のみ
- 入居定員4名 現在 男性4名利用中
- 建物 戸建住宅 5LDK
- 居室4室(8畳) 世話人室 リビング(共有スペース)、お風呂、トイレ、洗面所、キッチン共有
- 立地環境 住宅地の一角にあり、すぐ隣には公園がある。歩いて5分の所にコンビニ、スーパーなどがあり、駅までも徒歩15分程度。
- サービス管理責任者 — 川崎 まさお
 - * 普段は別にある事務所にいて、他に2ヶ所のホームも見ている。
- 世話人 — 豊田 のぞみ 月～金 6:00～9:00、15:00～20:00
(1日 計8h勤務)
- 生活支援員 — 名古屋 ひかり 土・日 8:30～17:30(8h勤務)

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 関係機関との連携

●「サービス担当者会議（サービス利用計画作成議）」 への参加

- ・ 相談支援専門員と連携し、支援チームによるネットワーク構築に寄与
- ・ 専門的な見地から意見を述べてアセスメントを深める

⇒「サービス等利用計画」の作成に協力するとともにそれを踏まえて「個別支援計画」を作成することで、地域や外部につながる支援になっていく



つまり、
顔の見える関係の“顔”になるってことですね！

サービス担当者会議に参加する際のポイント

1. サービス利用に至る経過を、相談支援専門員の説明により確認する。
2. 本人の意向について、本人の言葉により確認する。
3. 家族の意向について、家族の言葉により確認する。
4. 相談支援専門員によるアセスメント内容やニーズ整理について不明な点を確認したり、意見を述べる。
5. サービス等利用計画案に示されている支援の方向性や必要な支援内容の全体像について確認する。
6. 自らの事業所に求められていることについて確認するとともに、対応可能なことと、現状では難しいことなどについて意見を述べる。
7. 今後のスケジュールについて確認する。

※準備をした質問や意見を必ずしも実行する必要はありません。本人や家族の状況、会議の進行状況に応じて判断が必要です。

05 サービス担当者会議 事前準備シート(例)

| 確認が必要な事項(誰に何を確認する?) | 意見を述べる事項(誰に何を述べる?) |
|---|--|
| <p>(例)</p> <p>本人に……</p> <p>○希望等についてより具体的なことがらを確認する。</p> <p>・「久さんが考える立派な男ってどんな人ですか？」</p> <p>相談支援専門員に……</p> <p>○アセスメントについて根拠を確認する。</p> <p>・『「日常生活でやらなければならないことの優先順位がつけられない。」とあるが具体的にはどのような場面があるのですか?』</p> <p>他のサービス事業者……</p> <p>○連携の具体的な方法について確認する。</p> <p>・「緊急で連絡を取るときにはどちらに、お電話すればいいですか？」</p> | <p>(例)</p> <p>本人に……</p> <p>○本人に気をつけてもらいたいことなどを述べる。</p> <p>・困ったことがあったらすぐに相談してください。</p> <p>相談支援専門員に……</p> <p>○サービス等利用計画案に示されている各項目について意見を述べる</p> <p>・各表現が利用者にとって分かりやすいものになるようにしてください。</p> <p>他のサービス事業者……</p> <p>○本人の様子など注意を払ってほしいことや、具体的に支援に盛り込んでほしいことがらについて述べる。</p> <p>・就労継続支援→共同生活援助:朝の身だしなみの確認をしてください。</p> <p>・共同生活援助→就労継続支援:お昼の服薬の確認をしてください。</p> |

個人ワーク(事前準備シート作成)

今配布してある情報をもとに、自分が担当者会議に出席することを仮定し、確認が必要な事項意見を述べる事項で整理して、どんなことでも良いので指定した書式に書いてください。
(例を参考にしてもかまいません)

提出D1

ロールプレイ (サービス担当者会議)

ロールプレイについて(概要)

1. ロールプレイとは

- 現実にかかる場面を想定して、複数の人がそれぞれ役を演じ、疑似体験を通じて、ある事柄が実際に起こったときに適切に対応できるようにする学習方法の一つである。
- 学習者は、役割を演じなければならないが、演じ方はたいてい演者の自由である。
- 対人関係や態度・行動を通して行われる学習に用いられる。

2. ロールプレイのメリット

- 意志決定過程にみられるような物事のプロセスについて学ぶ可能性が高くなる。

3. ロールプレイの方法

① 事前準備

- シナリオ: 準備の段階でシナリオを作成するか、役割だけを決めて自由に行うか、目的によって決定する。
- 時間: 決まっているわけではない
- オリエンテーション: 実施する前に学習者にその目的を十分に説明する。

② 実施

- 実施中にロールプレイをビデオに録画しておけば、後で見直すことができる。

③ フィードバック

- ロールプレイ終了後、気づきや学びを話し合うことで、学習を深め、広げることが大切

ロールプレイ(ロールプレイング)の目的

日常生活の中で、人は必ず様々な役割を背負って暮らしていることを考えると、人生はまさにドラマと言えます。その中で、常に同じような役割ばかりをこなしていると、新たな人間関係を作り出すことは大変難しくなります。

ロールプレイとは、参加者が自由な雰囲気の中で、あるテーマについて即興的に役割を演じ、協同して、役割行動の変容を図るもので、日常生活におけるそれぞれの役割を見直し、新しい状況に応じられるようになることを目的としています。

- ① 日常生活における自分の役割を見直し、日常生活での課題を解決する手がかりを得ます。
- ② 参加者全員が、感情の解放をします。
- ③ 新しい、突発的な状況に応じることができます。

したがって、ロールプレイは日常生活のリハーサルとも言えるでしょう。参加者はうまく演ずる必要はありません。大切なのは、いかに自分なりに自発性を発揮して演ずるかです。

自発性が回復されれば、ロールプレイでの新鮮な役割体験は、新しい役割を日常生活に取り入れる原動力となります。

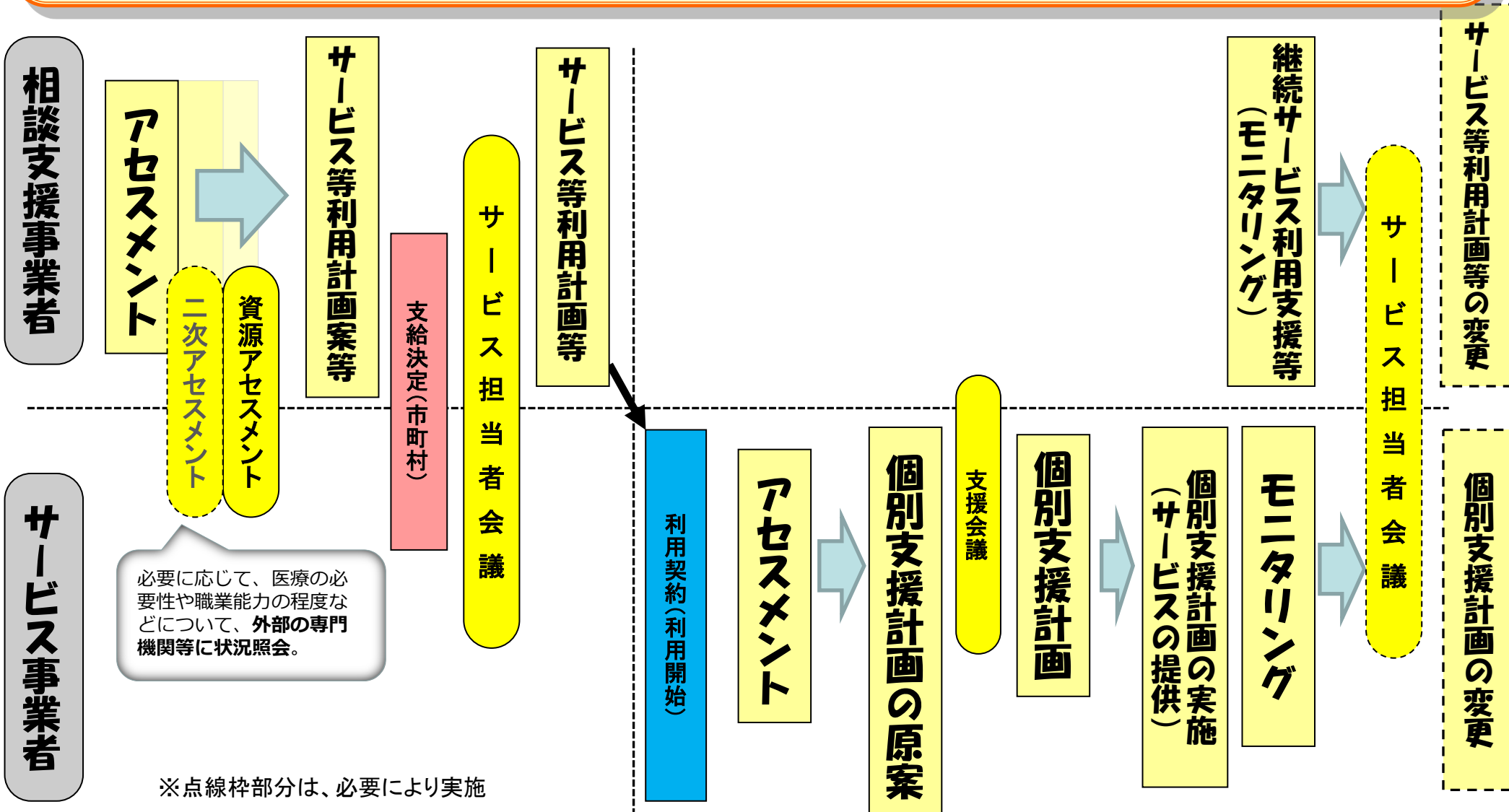
自発性とは、新しい状況においても、周囲と自分自身にとって、より適切な、望ましい対応ができるということです。一般に、人は、新しい状況に対しては、他人の意見や自分の既存の体験をよりどころとして対応してしまいがちです。自発性は、そのような自分の外側から規制してしまうのではなく、自然に自分の中から自分を動かしていくことです。

自発性は、まず役割をとること(役割取得)から、自発的に個性的に演ずること(役割演技)、さらに、新しい役割を創造すること(役割創造)へと段階的に高まっていきます。

ロールプレイを行う上での注意

- ① ロールプレイを理解しているファシリテーターをグループごとに配置すること
- ② 事前準備(オリエンテーション):参加者が主体的に関われるように情報や知識の整理
- ③ 役割別の準備:各役割ごとに自分たちの役作りを行い, 場面設定を話し合う
- ④ 役割演技・討議:役になりきって演る。時間内で場面を変えて複数回実施しても良い
- ⑤ 誰か一人が時間を占領しないこと
- ⑥ 振り返り(フィードバック):必ず自分の役やほかの役について感じたこと、考えたことを振り返る時間を取り、ロールプレイの後, 他の人へ感情・しこりが残らないよう配慮

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



サービス担当者会議 配役

| 役名 | 氏名 | 役柄 | 配役(氏名) |
|---------------------------|--------|----|--------|
| 本人 | 水道橋久 | | 外山 |
| 父親 | 水道橋つばさ | | 奈須 |
| 相談支援専門員 | 六本木はやと | | 前田 |
| 共同生活援助 サービス管理責任者 | 川崎まさお | | 須田 |
| 就労継続支援B 型サービス管理 責任者 | 本田一郎 | | 松下 |
| | | | |

ロールプレイ (サービス担当者会議)

今回は講師陣がそれぞれ本人、父親、相談支援専門員、Gサビ管、B型サビ管となり、サービス担当者会議の様子を再現しました。

振り返り(フィードバック)

役割を演じて体験したこと考えたことを全員が言葉にして分かち合う。

...例えば

- ・ ○○役として、自分自身が感じたこと...
- ・ ○○役として、他者の役について、いつもの自分とは感じ方、見方、考え方が違ったところ...
- ・ ○○役として、△△役の言動に抱いた感情.....等

- 演技であっても、思ったより内面が動かされることを経験する。その内面のざわつき、揺れ、感情的な反応を表現し共有することでロールプレイによる気付きは深くなる。その気付きが今後の会議の機能を上げていく。
- 分かち合うことで、役から離れられる(終わることが出来る)効果もある。

⇒だから、時間が足りなくても省かず、必ず最後に振り返りを行いましょう。

☆サービス等利用計画書を基に本人と面接を行う。

☆支援会議のポイント

個別支援計画の作成

個別支援会議の実施

- ・個別面接等によりサービス管理責任者等としてのアセスメントを行う。
- ・サービス等利用計画等を参考にする。

個別支援計画の原案を作成する

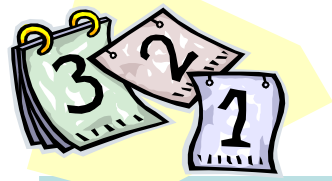
- ・利用者申込者心身の状況、他の障害福祉サービス等の利用状況を把握する。
- ・サービス担当者会議に参加し専門的な見地から意見を述べる。

サービス担当者会議

個別支援計画作成(演習)の流れ

- サービス担当者会議を経て、それぞれの事業所と契約するに至りました。
- 次に皆さんは、個別支援会議の実施、個別支援計画作成に向けて準備を行います。
- 受講番号が**奇数の方は「共同生活援助」、偶数の方は「就労継続支援B型」**事業所のサービス管理責任者として個別支援計画作成します。
- 個別支援計画作成にあたり「事例概要」及び「アセスメント表」、さらに「サービス担当者会議で確認した内容」を踏まえて「ニーズの整理」を行います。
- 個人ワークでの「ニーズの整理」を行い、提出用の書式に記載して下さい。
- 次にアセスメントを深め、支援の方向性や内容について確認するために、「本人への面接」を行います。「本人への面接」において聞き取る内容などについて個人で考えてください。
- 「本人への面接」にて聞き取った内容を踏まえて、必要に応じて「ニーズの整理」に修正を加え、それを基に個別支援計画の原案を作成して下さい。

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の業務 支援プロセスの管理



- 進行管理
 - 支援計画と時間軸はセットで提供
 - 時間軸の妥当性のチェックとタイムキーパー役
 - ゴール設定(長期目標と短期目標)の妥当性のチェック
- 個別支援会議の開催
- 支援課題の整理と大方針の設定
- 個別支援計画の作成(←最も重要！！)
 - サービス管理責任者には最終的な責任がある。署名と押印で責任の明確化を！



⇒ 個別支援の質を担保する役割

ニーズ整理のポイント

- ニーズ整理の目的
- ニーズ整理のポイント
 1. 利用者の意向に沿っているか
 2. 人生の一部としてとらえているか
 3. 全体像をとらえているか
 4. 多面的にとらえているか
 5. 複数の立場、職種の見解が反映されているか
 6. 課題は検証可能か

07 ニーズの整理表

利用者名

さん

| No | サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ） | 初期状態の評価（利用者の状況・環境の状況） | 支援者の気になること・推測できること（事例の強み・可能性） | 願いや希望を満たすための具体的な到達目標 |
|----|---|-----------------------|-------------------------------|----------------------|
| | <p>サービス等利用計画は、サービス担当者会議にサビ管も参加して決めたものである。</p> <p>本人のニーズを全体的に把握したうえで、事業所で何ができるかを考える。その逆にならないように！</p> | | | |

サービス等利用計画とニーズ整理票の関係

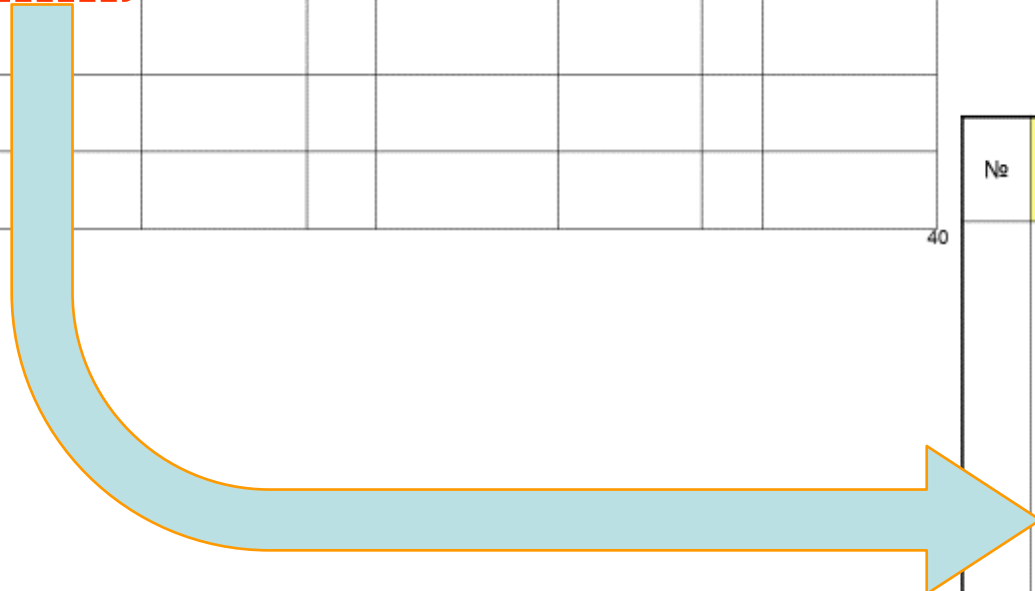
サービス等利用計画書(書式例)

| 利用者氏名 | | 障害支援区分 | | 相談支援事業者名 | | | |
|----------------------------|-----------------|----------------|------|---------------------------|-------------------|------|---------|
| 障害福祉サービス受給者証番号 | | | | 計画作成担当者 | | | |
| 地域相談支援受給者証番号 | | | | | | | |
| 計画書作成日 | | モニタリング期間(開始年月) | | 利用者同意署名欄 | | | |
| 利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活) | | | | | | | |
| 総合的な援助の方針 | | | | | | | |
| 長期目標 | | | | | | | |
| 短期目標 | | | | | | | |
| 優先順位 | 解決すべき課題(本人のニーズ) | 支援目標 | 達成時期 | 福祉サービス等 種類・内容・量(頻度・時間) | 課題解決のための 本人の役割 | 評価時期 | その他留意事項 |
| 1 | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | |
| 4 | | | | | | | |

07 ニーズの整理表

グループ _____
利用者名 _____ さん

| No | サービス等利用計画で整理された解決すべき課題(本人のニーズ) | 初期状態の評価(利用者の状況・環境の状況) | 支援者の気になること・推測できること(事例の強み・可能性) | 願いや希望を満たすための具体的な到達目標 |
|----|--------------------------------|-----------------------|-------------------------------|----------------------|
| 40 | | | | |



ニーズ整理の記入についての工夫

- アセスメントでは、できることとできないことをチェックしているうちに、本人の全体像がぼやけてしまうことがある。⇒アセスメントを100字程度で要約してみる。
- 本人の意向等のニーズを、一つひとつ整理しながらも、支援課題を全体的に整理する。⇒全体像の把握のために、ニーズ整理表のニーズごとの横線を省いた。
- 本人の能力、家族、インフォーマルな支援等の状況等は、利用者の状況、環境の状況に整理する。
- 支援者の気になることや推測できることには、ご本人の強さ、可能性、揺れ具合も含めた見立てとして整理する。
- 支援者の見立てのうえで、ご本人の希望に即した支援を行うためには、もう一度、本人の全体像を確認する。⇒「〇〇さんって、どんな人」ということを、100字程度でまとめてみる(箇条書きでも可)。
- 本人の全体像をふまえて、ご本人の希望に即した支援を行うためにニーズを整理する。
- 本人の整理されたニーズから目標を導き出し、それが、なぜご本人にとって大切なのかを明らかにする。

(参考) 100文字アセスメント例

①**ぼくは**入院して10年目。日常家事はうまくできないけど、退所後はお金を自由に使ったり、人を気にせず自分のペースで生活したいので、アパートで一人暮らししたい。でも保証人もいないし・・・。それにどんな一人暮らしになるのかなあ？ (109字、精神障害、統合失調症のある人)

②**私は**病院や施設に入らずに、自宅で介助者のサポートを受けながら生活していきたい。でもこのままだと夫の体調やお金の負担も心配・・・。だれか私を介助してくれる人が来てくれないかしら・・・。(89字、身体障害、肢体不自由のある人)

③**ぼくは**今の家で暮らしながら、そのうち作業所でなくちゃんと働きたい。だけど話の理解も作業も遅いし、皆にはついていけずちょっと不安もある。また体調不良の母親もいるし、何かとうるさい兄もいてどうしていいか困っているんだ。(109字、知的障害のある人)

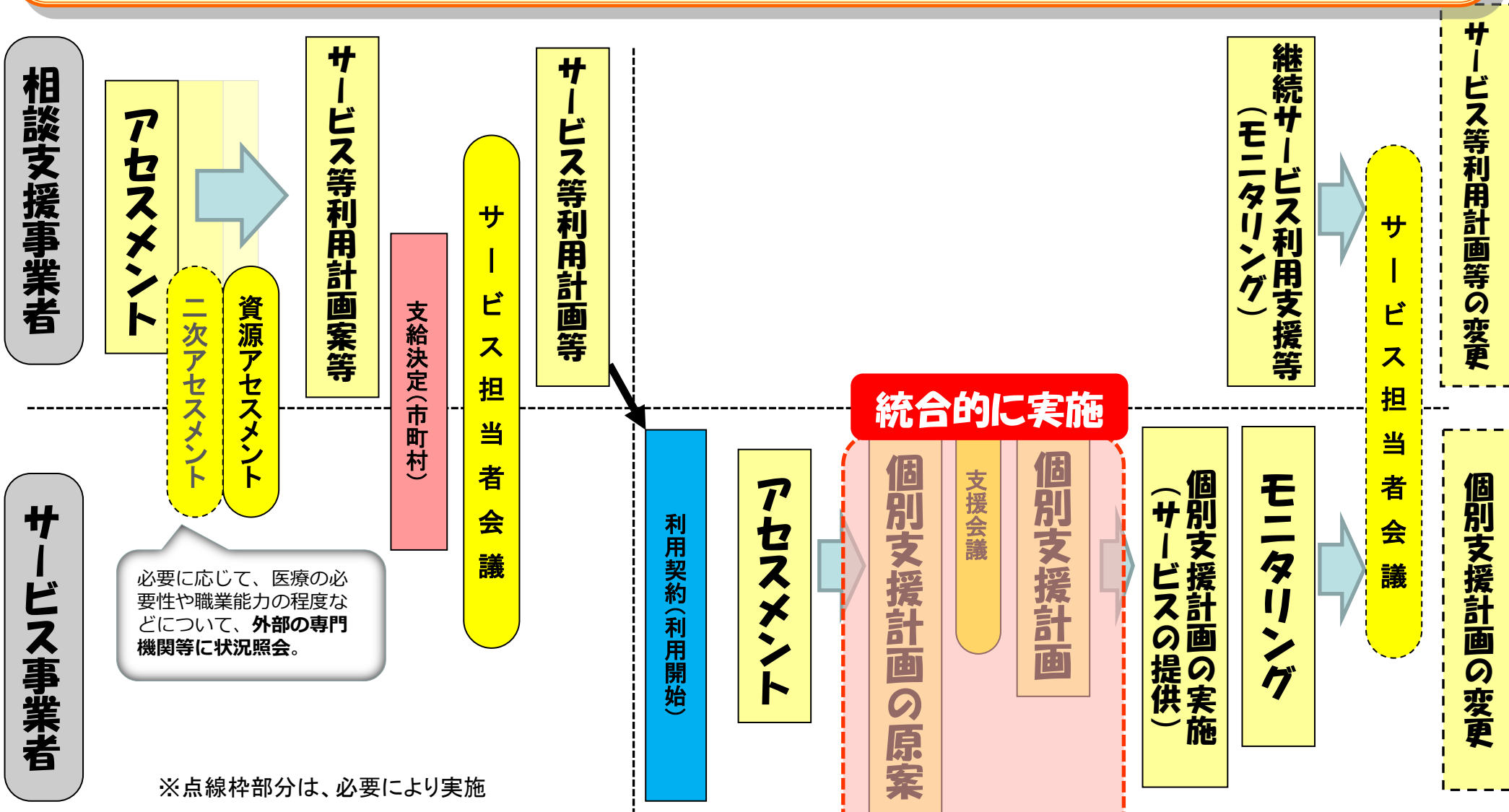
神奈川県相談支援従事者初任者研修 駒澤大学佐藤光正先生の資料より引用

個人ワーク(ニーズ整理票作成)

今までの様々な情報を踏まえて、
提出用のニーズ整理表の書式に記載
してください。

提出D2

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



利用者への面接のポイント

- 面接の目的について利用者に分かりやすく説明する。
- 本人の具体的な希望や不安について聞き取る。(傾聴)
- 本人に支援例などを伝えて、具体的なイメージ化を促す。

「傾聴」のポイント

| すべし | すべからず |
|---|--|
| 発言者に身体を向け、前傾姿勢 目を合わせる 柔軟な表情をする うなづく、あいづちを打つ 相手の発言を復唱する 相手の発言を要約して確認する 内容に応じて反応を返す | ふんぞり返り 目をつぶって、難しい顔 キラキラしてない視線 ピクリとも動かない ながら作業 延々、サービス管理責任者等が発言・解説 のっけから疑問・批判 |

個別支援計画作成のポイント

- サービス等利用計画に基づき個別支援計画を作る
- 本人のニーズがきちんと反映されているか？支援者側の押し付けになっていないか？
- 本人を中心とした計画を、本人と一緒に作っていく過程こそが大切
 - 自分の支援計画をラフスケッチする力をつける
 - 自分の人生に責任を持つという視点
- 本人に分かりやすい言葉で書く
- 支援内容を抽象的な言葉でごまかさない(安定した生活、楽しい暮らし、薬がちゃんと飲めるように・・・etc)
- 具体的な目標、期間を設定する。数量化出来るように努める。
 - 定期的に評価を行う
- 小さなステップを踏むような計画になっているか

08 個別支援計画

利用者氏名: _____

作成年月日 _____ / _____ / _____

サービス等利用計画の総合的な方針

到達目標

長期目標(内容・期間等)

* 必要に応じてサービス利用終了時の目標を加える。

短期目標(内容・期間等)

具体的な到達目標及び支援計画等

| 具体的 到達目標 | 本人の役割 | 支援内容 (内容・留意点等) | 支援期間 (頻度・時間・期間 等) | 担当者 | 優先 順位 |
|-------------|-------|-------------------|-------------------------|-----|----------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

上記の計画書に基づきサービスの説明を受け、内容に同意致しました。

平成 年 月 日

利用者氏名 _____ 印

サービス管理責任者氏名 _____

印

ニーズ整理票と個別支援計画のつながり

07 ニーズの整理表

グループ _____

利用者名 _____ さん

| No | サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ） | 初期状態の評価（利用者の状況・環境の状況） | 支援者の気になること・推測できること（事例の強み・可能性） | 願いや希望を満たすための具体的な到達目標 |
|----|--------------------------------|-----------------------|-------------------------------|----------------------|
| | | | | |

サービス等利用計画書(書式例)

| 利用者氏名 | 障害支援区分 | 相談支援事業者名 | | | | | | |
|----------------------------|-----------------|----------|------|---------------------------|-------------------|------|-----|----|
| 障害福祉サービス受給者証番号 | | 計画作成担当者 | | | | | | |
| 地域相談支援受給者証番号 | | | | | | | | |
| 計画案作成日 | モニタリング期間(開始年月) | 利用者同意署名欄 | | | | | | |
| 利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活) | | | | | | | | |
| 総合的な援助の方針 | | | | | | | | |
| 長期目標 | | | | | | | | |
| 短期目標 | | | | | | | | |
| 優先順位 | 解決すべき課題(本人のニーズ) | 支援目標 | 達成時期 | 福祉サービス等 種別・内容・量(頻度・時間) | 課題解決のための 本人の役割 | 評価時期 | その他 | 事項 |
| 1 | | | | | | | | |
| 2 | | | | | | | | |
| 3 | | | | | | | | |

08 個別支援計画

利用者氏名: _____ 作成年月日 _____ / _____

サービス等利用計画の総合的な方針

| | |
|--------------|--------------------------|
| 到達目標 | |
| 長期目標(内容・期間等) | *必要に応じてサービス利用終了時の目標を加える。 |
| 短期目標(内容・期間等) | |

具体的な到達目標及び支援計画等

| 具体的到達目標 | 本人の役割 | 支援内容(内容・留意点等) | 支援期間(頻度・時間・期間等) | 担当者 | 優先順位 |
|---------|-------|---------------|-----------------|-----|------|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

上記の計画書に基づきサービスの説明を聴き、内容に同意致しました。

平成 年 月 日 利用者氏名 _____ 印 サービス管理責任者氏名 _____ 印

(参考)

個別支援会議を活性化させるスキル等

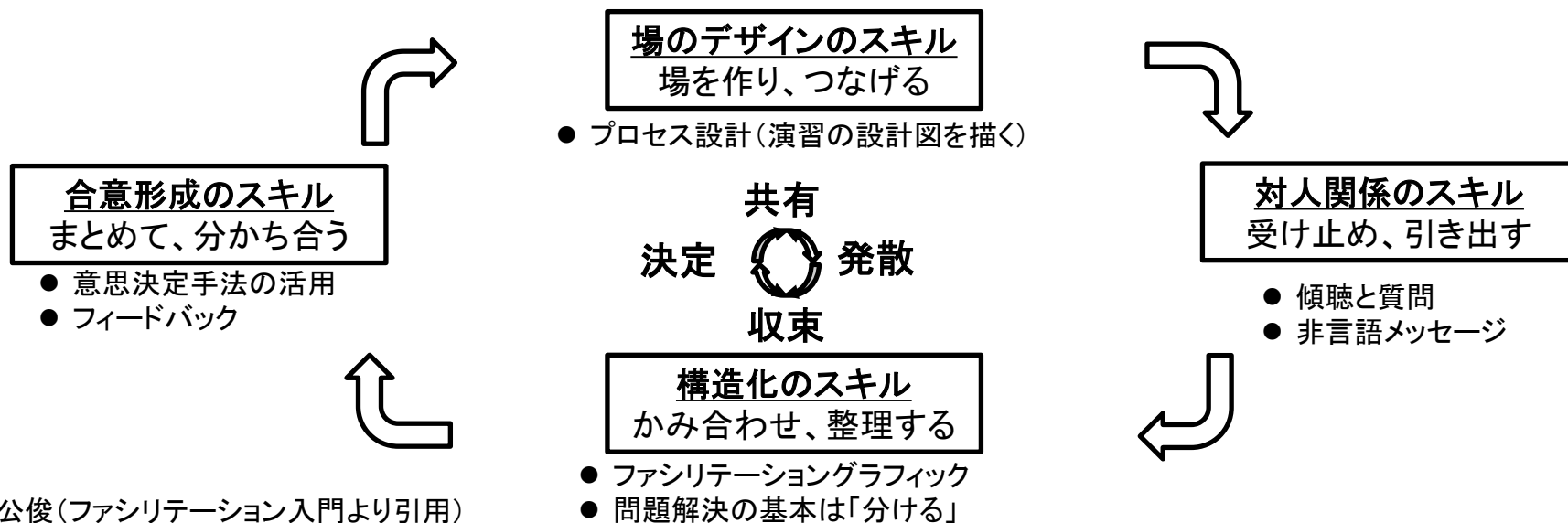
1. 参加者が安心して発言できる場をつくる ~10のスキル~

- ①自然体 ②グループ作り ③見通し ④グランドルール ⑤アイスブレイク
- ⑥傾聴・応答 ⑦要約 ⑧公平な発言量 ⑨議論を見える化 ⑩ヒソヒソ話

2. 時間を意識した場をつくる

- ①時間は無限ではない ②時間単価を意識する ③ホワイトボードに時間を示す
- ④発言は短く ⑤志向の活性化策 ⑥発散と収束のメリハリ

3. ファシリテーションスキルを活用する ~問題解決型FTの4つのスキル~



堀 公俊(ファシリテーション入門より引用)

個人ワーク(個別支援計画の作成)

添付してある個別支援計画の書式に、ニーズの整理表(提出用と解答例)サービス等利用計画に沿って個別支援計画を作成してください。

提出D3

利用者・家族への説明のポイント

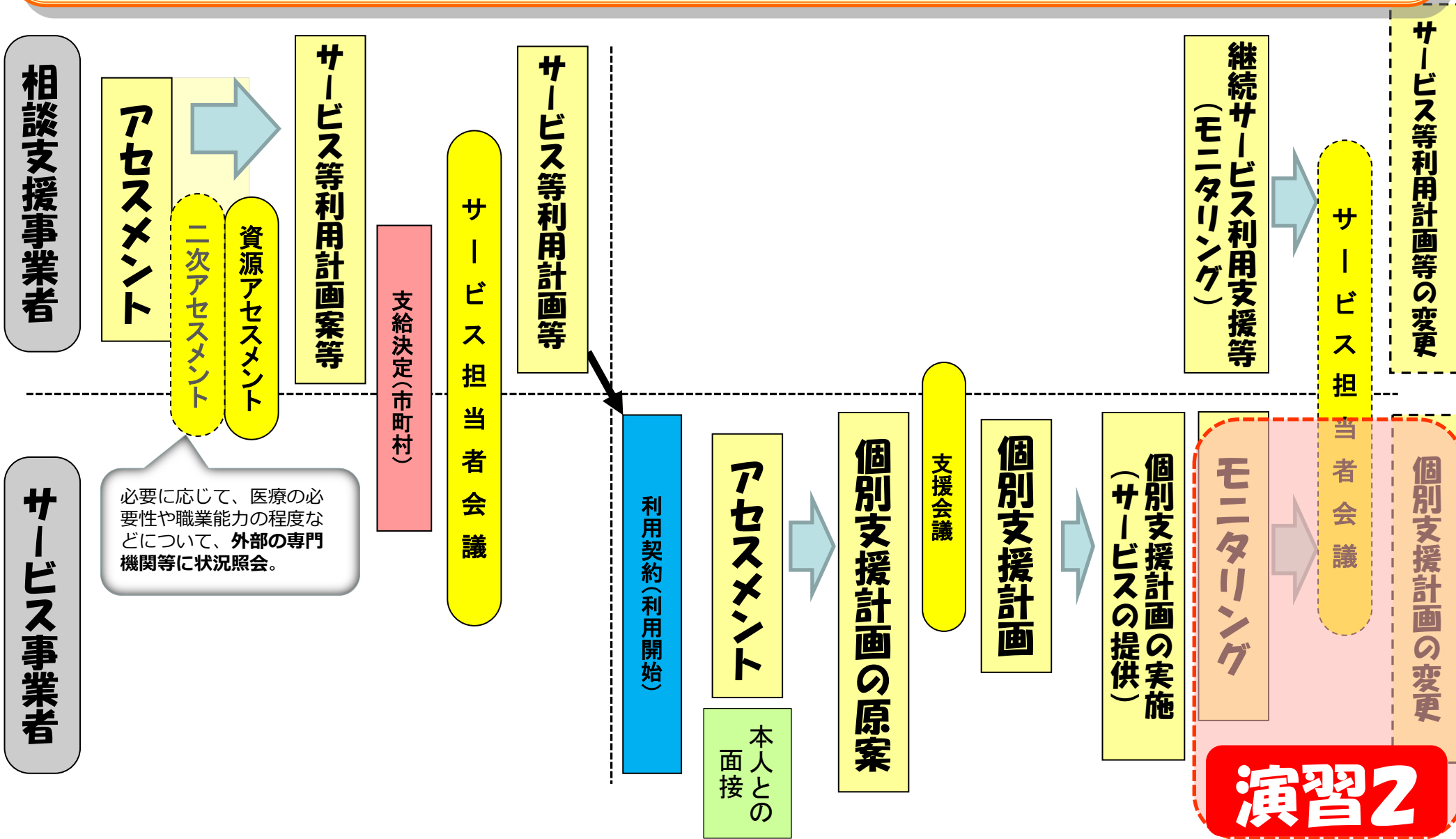
- 本人に分かりやすい言葉で説明する。
- 総合的な支援の方針を確認することで、サービス等利用計画に基づき作成したことを確認する。
- 本人のニーズがきちんと反映されていることを、どのような過程を経て、何を根拠として支援内容を組み立てたかについて説明する。
- 目標を分かりやすく説明することで、何のための支援かを明確化する。
- 支援内容を抽象的な言葉ではなく、具体的な場面などを想定して説明する。

【演習2】 個別支援計画の実施状況の把握 (モニタリング)および記録方法

演習の内容と目的

| | | |
|--------------------------------------|--|------|
| Ⅱ, サービス提供プロセスの管理に関する演習(7.5時間) | | |
| 1. 個別支援計画の作成(演習) | モデル事例を活用したグループワークにより、サービス等利用計画に示される総合的な援助方針、長期目標及び短期目標を踏まえて、個別支援計画の支援内容、担当者、連携の頻度等について検討する。それに基づき、支援目標、支援内容を設定し、個別支援計画を作成する。 | 270分 |
| 2. 個別支援計画の実施状況の把握(モニタリング)および記録方法(演習) | モデル事例を活用したグループワークにより、事業所において提供している支援のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、視点・目的・手法等を理解する。 | 180分 |

指定特定相談支援事業者(計画作成担当)及び障害児相談支援事業者と 障害福祉サービス事業者の関係



モニタリング(演習)の流れ

(1) 追加情報(モニタリング情報)

共同生活援助事業者、就労継続支援B型事業者のそれぞれで実施した中間評価を映像で確認する。

(2) サービス管理責任者から個別支援計画の中間評価に関する報告を受けた相談支援専門員が、各サービスの支援状況の共有と支援内容の調整の必要性があると考え、サービス担当者会議を開催することとなった。

○模擬サービス担当者会議

サービス担当者会議を映像で確認し、本人の状況等がどのように変化したのかを把握し、様々な情報を踏まえて、個別支援計画の変更案を作成してください。

ロールプレイ(中間評価)

個別支援計画を作成して半年後、
久さんの様子に変化がでてきました。

それぞれの事業所で本人とサビ管
で中間評価をしている映像をご覧ください。

ロールプレイ(サービス担当者会議)

それぞれの事業所で中間評価を実施し、久さんに変化がみられたため、相談支援専門員がサービス担当者会議を開催しました。

この様子も踏まえて、個別支援計画の変更のヒントにしてください。

サービス担当者会議会議録

中間評価後のサービス担当者会議の議事録を作成しました。

この議事録を読み込んで、個別支援計画の変更の参考にしてください。

個別支援計画修正案の作成

「モニタリングによる新たなニーズ」

サービス担当者会議の結果、下記の内容で個別支援計画の修正案を作成することになりました。

共同生活援助グループ: 久さんは、「今はスマイル(就B)からピアハウス(GH)に帰ってきて、疲れて何もできない日もあるけれど、早く就職活動をして仕事をしたい。体力と自信をつけたいのでスマイルでもいいけど、もっと就職につながるような活動もしていきたい。」と希望されていることがわかりました。

就労継続支援グループ: 久さんは「今は、就労よりも一人暮らしの力をつけたいという。もちろん、仕事の力も徐々につけていきたい」と希望されていることがわかりました。

個人ワーク

(個別支援計画修正案の作成)

中間評価や個別支援計画(変更案)作成の会議録、担当者会議の情報を含めて、変更後の個別支援計画書を作成してください。

提出D4